アンケート対応作業メモ

凡例

二重線:削除

強調,下線:追加

通し番号 108①

HP番号 24

第4章 平面交差点の交通容量

・ 交差点の飽和度計算をする際に、ピークにおける実測 1 時間当たり交通量を使用して計算しているが、渋滞箇所において交差点に流入できない交通量(渋滞長)の交通量評価手法を掲載して欲しい。あわせて、計算例も添付していただきたい。

<対応方針:超過需要を含めた真の交通需要の推定方法(P.84に簡単な記述あり)と、その適用が必須であることを明記する。>

<追加対応案: 第Ⅱ編にも、渋滞している交差点流入部における交通需要の推定法を特記する.>

○作業の進捗状況

新規提案

(記述案)

6.1.1 設計交通量の推定設定

交差点の設計,交通容量の検討には,方向別の交通量が必要であるので,まず最初に設計交通量の設定が重要な問題となる.この問題は,新設道路計画にともなって生ずる全く新たな交差点の設計と既存交差点を改良する場合とでは異なった方法がとられる.

既存交差点の改善の場合には、設計に用いる方向別交通量はピーク時(通常、朝と夕の2回)に実測を行って求めるべきである。 昼間 12 時間について各流入路において 15 分間を計測単位として右左折、直進別、車種別(最小限大型車とその他の2分類、必要に応じて二輪車も分類する)に調査する。 なお、 をだし、信号2回待ち以上の渋滞がありで、交通需要がその流入部の交通容量を越えていると考えられる流入部では、需要交通量の計測は停止線での交差点通過交通量として求めてはならない。 停止線通過交通量を交通需要とすると実際よりも過小となる。 それは、流入部の待ち行列への到着交通量として計測しなければならないものである。 またはピーク時間帯のはじまりから渋滞待ち行列が最大になるまでの渋滞行列台数の伸びを計測して、その値をその間における交差点流入交通量に加算すれば正しい需要交通量を求めることができる。 多少過大となるが、渋滞している各計測時間帯(15 分間)で、次式により交通需要を推定することができる。

交通需要[台/15分]

= 計測時間帯開始終了の渋滞長[km] - 同開始時刻の渋滞長[km] + 捌け台数[台/15分] 渋滞列中の平均密度[台/km]